

製品名: カスパーゼ-6 (リン酸化 Ser257) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04369**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	15,30kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP6
別名	CASP6; MCH2; Caspase-6; CASP-6; Apoptotic protease Mch-2
遺伝子 ID	839.0
SwissProt ID	P55212
免疫原	抗血清は、Ser257 のリン酸化部位周辺のヒトカスパーゼ 6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 223-272

背景

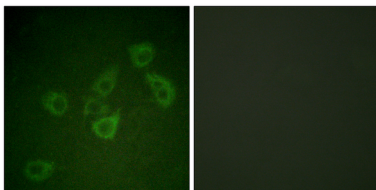
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ (カスパーゼ) ファミリーに属する酵素をコードしています。カスパーゼの

連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化することで活性酵素を形成します。このタンパク質はカスパーゼ7、8、および10によって処理され、カスパーゼ活性化カスケードの下流酵素として機能すると考えられています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2015年10月],触媒活性: P1位のAspを厳密に必要とし、Val-Glu-His-Asp-|の優先切断配列を有する。、酵素制御: 活性化はSer-257のリン酸化によって抑制される。、機能: アポトーシス遂行に参与するカスパーゼの活性化カスケードに参与する。in vitroにおいて、ポリ(ADP-リボース)ポリメラーゼおよびラミンを切断する。過剰発現はプログラム細胞死を促進する。、PTM:カスパーゼ3、カスパーゼ8、または10による切断により、2つの活性サブユニットが生成される。、類似性:ペプチダーゼC14Aファミリーに属する。、サブユニット:18 kDa (p18) サブユニットと11 kDa (p11) サブユニットからなる、2つの逆平行に配置されたヘテロダイマーからなるヘテロテトラマー。、

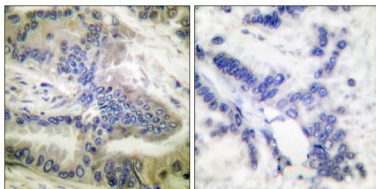
研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;

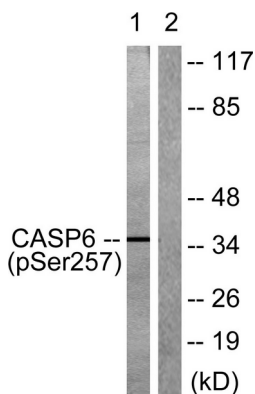
画像データ



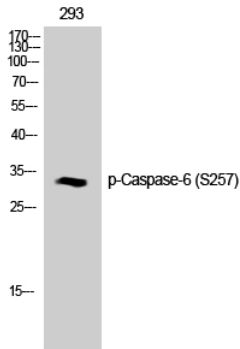
カスパーゼ6 (リン酸化 Ser257) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



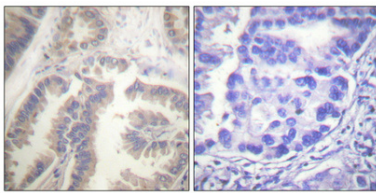
パラフィン包埋ヒト大腸癌の Caspase 6 (リン酸化 Ser257) 抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



エトポシド 25 μ M 60%処理した 293 細胞ライセートの、カスパーゼ6 (リン酸化 Ser257) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



293T 細胞のリン酸化カスパーゼ 6 (S257) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いたウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。